

正誤表

『問題解決の教科書 CITA 式問題解決ワークブック』の初版 (Ver.1.0) におきまして、一部の表の端が欠けておりました。読者の皆様および関係者の皆様にお詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正いたします。

■ 64 ページ

ワークショップ	
課題	皆さんの選んだテーマに関して、次の4点についてできるだけたくさんリストアップしてください。 1 利害関係者 2 利害関係者たちのニーズと期待 3 それらのニーズや期待を満たすために必要なアウトプット 4 現状生まれてしまっているアウトプット
使用ツール	04. Needs and expectations
時間	20分
注意事項	利害関係者は、想定できる限り全て含める 利害関係者のニーズが想像できない時は、自分が相手に仕事を頼む立場になって考えてみる。例：サプライヤーさんに仕事を依頼する場合、どんなことを求めるか？

■ 102 ページ

ワークショップ	
課題	活動を振り返ってみましょう。 ・ 7回のトレーニング・プレゼンテーション作成・レビュー・発表を通じて、一番の学びはどんなことでしたか？ ・ 新たに見つけた自身の課題は何ですか？ ・ 学んだことを実務でどのように活かしていきたいですか？ ・ 次にCITAを受講する人達にエールを送るとしたら何と伝えますか？
使用ツール	07. CITA presentation template
時間	30分

■108 ページ

プロセス	問題解決のために必要な8つのステップ (CITA 8 step)
ツール	上記プロセスを進めるにあたり思考をまとめ、活動を具現化するための各種ツール (Appendix参照)
練習の場	プロセスとツールを使いこなすための練習の場として、20のワークを7回のセッションに分けたワークショップ
実践の場	ワークショップを通じて生み出した成果物をストーリーに組み立てる、4つのワークを伴ったプレゼンテーション作成・レビューセッション
実証の場	作成したプレゼンテーションを第三者に向けて発表し理解してもらうことで、相手の共感が生まれることを体感する成果発表会*と、振り返りの2つのワーク
反応	アンケートの実施と結果のフィードバックにより、参加者同士の反応を知ること、自分の気づきと他者の気づきの違いを知る振り返り*
評価	発表会を見た人々からのフィードバックや、認定制度による達成度の評価 (認定制度については本書では割愛) *
支援	トレーニング終了後講師とともに1on1での振り返りや現場での活動支援*

(*) 実際のトレーニングセッションでのみ実施

2024年4月24日 インプレス